

E-MAIL
ota-kazuaki-r@pr
ef.nagano.lg.jp

校長通信

発行 校長 大田 一昭
〒384-0023
小諸市東雲 4-1-1
TEL 0267-22-0216

お願い

この新聞は保護者の皆様にお渡しください

教室掲示用

小諸高等学校 吹奏楽特集

本年度より学校のHPに校長通信掲載しました。

センター試験に100人

～昨年より倍増～
進路主任 柳沢先生

三年生頑張っています。放課後、研究室には質問に訪れている生徒をよく見かけます。進路指導室も賑やかです。

【～進路室より～】



10月は大学入試センター試験出願の季節です。

9月下旬、センター試験の出願準備を完了した3年生がすでに100名に迫る勢いです。昨年より倍増です。国公立大学、センター利用私立大学受験者はもちろん、指定校推薦やスポーツAO試験出願者、さらに専門学校への進路が決定している生徒の中にも「高校での学習の総まとめ」として受験する生徒がいます。次のステージに向け小諸高校での学習に直向きに取り組む3年生の姿勢に拍手

です。公務員試験1次合格や就職内定の速報も飛び込んできて、進路室内は一段と活気に溢れてきました。3年生の挑戦を学校全体でますます応援していきます。

10月、1年生は小諸市長様・株式会社ツルヤ様との「ふれあい講座」や職業体験、さらに中央大学など有名大学への訪問が企画されています。また、2年生は修学旅行後の11月、夏の学習合宿の信州大学出前講座に続き、近隣国公立大学や県内大学の出前講座、さらに専門学校や就職につながるキャリア学習が予定されています。

3年生の進路に向けた前向きな姿勢は、確実に下級生に受け継がれているなあ、と感じる今日このごろです。

学校がきれいなのは 整備委員のおかげです



女子校の伝統なのでしょう。校舎内外がとてもきれいに掃除されているのは本校の自慢の一つです。

整備委員会の吉原美江さん(3-6左)と江本彩希さん(3-4右)が校長室を訪問してくれました。

二人から、整備委員会のひたむきな活動を聞いてなるほどと思いました。「ワックスがけ、校内清掃=ゴミステーション当番 学期末の大掃除。委員会のメンバーがみんな一生懸命やってくれました。感謝しています。」

吉原さん、介護福祉士に。江本さん、ペットトリマーに。目がキラキラしていました。

小諸高校レスリング なぜ 強い

～顧問 森角 裕介先生紹介～ スポニチ5年前の記事 新日本プロレスにも“在籍” 31歳元格闘家が異色の転身



レスリングのグレコローマン重量級で全日本選手権優勝3度、世界選手権出場2度を誇る森角裕介さん(31)が、難関の長野県立高校教員採用試験を突破し、1日から小諸に赴任した。日体大卒業後、アテネ五輪出場を狙って新日本プロレス・闘魂クラブで腕を磨いた異色レスラー。任地ではレスリング部監督に就任し、トップ選手の輩出を目指している。

得意のローリングで日本一となり、世界のマットも経験した県レスリング界の至宝が、県立高校教員としてスタートを切った。森角さんは7度目の採用試験を突破。体育科教員として小諸に赴いた。「30代、40代は突っ走ってやっていきたい。ジュニアから選手を育てたい」と、元気いっぱいだ。

県立高校では実に四半世紀ぶりに誕生したレスリング専門の教員。歩んできた道も確かな輝きを放ってきた。柔道を始めた浅間中(佐久市)での出会いがきっかけだ。

レスリング学生王者だった塩川和仁勧められ、北佐久農ではレスリング部へ入部。中嶋監督の下で基礎を学び、国体3位の実績を残した。実力をさらに伸ばしたのは日体大に進んでから。大学3、4年とグレコローマン97キロで全日本選手権連覇。卒業後は新日本プロレス・闘魂クラブに所属してアテネ五輪(04年)を狙った。

だが2年間の挑戦も実らず、県初の五輪代表を逃すと、今度は高校教員を目指した。新日本プロレスからプロレスラーとしてデビューする誘いもあったが、「厳しいけれど、人情味のある先生たちに憧れた」と、格闘家としての可能性を開いてくれた中学、高校時代の師匠を慕って信州へUターン。

新年度からは監督に就任。今後の目標は「**恩師を超えたい**」と「**五輪選手を出したい**」の2つだ。これまでと同様、選手たちに胸を貸しながら県レスリング界を引っ張る存在になりそうだ。

今年度のインターハイは、私にとって最初で最後のインターハイでした。今回、この全国の舞台に立ちみて、自分は、初戦敗退という結果に終わり、まだレベルが低かったんだなと痛感しました。ですが、自分から点を取りにいて全力で闘えたということは、一年生の頃と比べると心身共に大きく成長できたなと思いました。そして、昨年優勝した白鳥慶樹先輩の強さが同じ全国を体験したことで改めて感じられました。私は将来、保育士になりたいと考えています。短期大学へ進み、資格を取り、レスリング部で培ってきた忍耐力を武器に社会に貢献していきたいです。また、一・二年生もインターハイ目指して頑張ってもらいたいです。応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

インターハイ出場選手の声 上

3年 小林 洸介君 今回のインターハイで自分はとても大きなものを得ました。それは、仲間との絆です。

高校最後のインターハイということで、試合をする前に不安と緊張で体が固くなってしまったとき、一緒にいた仲間が励ましてくれて、「自分は一人じゃない」と思いながら試合に臨み、見事に一回戦目に勝ち抜きました。ですが、二回戦目では、相手に何も出来ずに負けてしまいました。この悔しさを次に生かしたいと思い、自分は大学に行ってもレスリングを続けていき、今度は優勝を目指してい



うと思います。

3年黒田美嶺さん

(本日は二名のみ、次にもう二名載せましょう)